

# 核不拡散・核セキュリティ分野における人材育成

## 第17回核不拡散・核セキュリティ作業部会での人材育成議論ポイント

### 事務局 からの 提案議題

・核不拡散・核セキュリティの知識は、条約や各国法規制の理解、実際の計量管理や防護実施など技術系職員・事務系職員ともに必要。  
・しかし、現状では、育成すべきターゲット層、また習得させるべき技術・知識が精査されておらず、本分野での育成方法在り方の検討が必要。(実務者への座学・実地研修修了資格交付、裾野を広く設定した場合の関連した活躍場(つぶし)の提示など)

### 委員からのコメント

- ・現学生は、学業・職業選択時「**安定性**」「**つぶしが利く**」ことを重視。就職の受け皿・キャパシティが必要である。
- ・**具体的なキャリアパスが見えない**ことが問題。現在本分野で国際的に活躍している日本人は、個人の資質のみで道を開拓している印象を受ける。
- ・学生のうちに、**日本核物質管理学会等コミュニティ**に入って貰うことは知ってもらうには有効。
- ・地層処分等と同じく、不拡散・核セキユは幅広い分野・専門性を持った人の集合で成り立っている。**関連する分野と合わせ学生へプログラム等を提供**することは、学生が興味を持つきっかけの一つになるのでは。
- ・核不拡散・核セキユで**要する専門性、専門性を活かせる関連分野**など分かる**学生向けマップ**作成(視覚化)
- ・教員でも、学生のうちに**教育すべき/OJTで学ぶべき知識の区別が付かない**ことが多い。また大学施設のセキュリティ対応など学生のうちに学ぶのは不可能な事項もあり、**各目標となる職務に対し、学ぶべき知識が明確でない**ため幅広いマップは有効。マップ化することで、各大学等で持つ得意分野を活かされるのではないか。
- ・核不拡散・核セキュリティの**重要性・評価を発信**することが必要。一般の方が共感・価値を感じるようメディア等を使ったイメージ戦略や他業界との連携が効果的。

# 核不拡散・核セキュリティ分野の専門性について（イメージ図）

- 核不拡散・核セキュリティ分野は、条約等の国際ルールや各国の法規制を理解するとともに、実際の核物質の計量管理や輸送、防護措置などの実務の実施を行うなど、**個別の専門領域の壁を超え、総合的・学際的な取組が必要**な分野。
- このため、必要な専門知識という点では極めて間口が広く、また、その分野で得られた知識・経験は、他の分野にも応用・援用可能であり、**潜在的に高い人材の流動性**を有する。

